

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は今年度初めて担当したものである。授業では、できるだけ平易な言葉での、日本語学の概論に努めた。高校3年生までの知識を確認しつつ、言語学で必要とされる考え方を具体例を交えて示した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>回答数が1名と少ないが、全ての項目において、平均値が5～4と高い数値を示している。回答していない他の学習者の授業態度も良好で、ディスカッション課題にも積極的に応じていた。図書館を利用していないことがあったため、次年度の課題としたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、日本語教師養成課程の中で1年2学期に履修する科目である。日本語教育の概論を学んだうえで、どのように日本語を教えるかの前提として、言語学の知識が必要となる。学習者が母語として学んできた日本語を、第2言語として捉えなおすことができた。内容が妥当であったことが、「学習到達度の自己評価」の高さから伺える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述にあった「何をしていたか分からなかった」ということに関しては、毎回授業の終わりに授業目標を達成したかの指標と、達成するためのタスクを示したいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

今年度は初めて担当したが、学生のニーズと学習目標を照らし合わせて概ね達成できたと思う。次年度の課題は、自由記述も踏まえ、学習内容と自宅課題をバランスよく調整する。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は今年度初めて担当したものである。受講動機は、「資格取得」について、「関心のある内容」の項目が高い。日本語教師を目指し、日本語教育に関心がある学生であることを1学期に知り、またニーズ調査を行ったので、それらを踏まえて授業を実施した。具体的には、日本語教師の範囲や日本語教育の範囲を、学生の身近な町北九州を題材に取り上げつつ講義した。さらに、自身の問題意識に合わせて調査タスクを設定し、調査したことについてまとめ、議論した。☒</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>・学習到達度の自己評価に関しては、平均値4.0～4.8と非常に高かった。授業の目標を学生自身の課題と結び付け取り組んだ結果だと考えられる。</p> <p>・情報利用に関しても、インターネットでデータを調べたり、授業で指示することも多かったためか、自主的に行っていたようだ。</p> <p>・一方で、学習量の評価に関しては、「授業についていくのが精一杯」との記述や、「特に何をしたらいいか分からなかった」という記述もあった。意欲関心があったが、それらを知識に結び付けるための戦略を授業で示す必要があるといった1学期の反省から、学生の理解度を見極めるタスクを行い、さらに出来そうな場合には追加でタスクを指示した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、日本語教師養成課程の中の初めに履修する科目である。よって、日本語教育の概論及び入門的な位置づけとなる。日本語教育を初めて学ぶ学生へ向けた授業であり、それが妥当であったことが、「学習到達度の自己評価」の高さから伺える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述にあった「何をしていたか分からなかった」ということに関しては、毎回授業の終わりに授業目標を達成したかの指標と、達成するためのタスクを示したいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

今年度は初めて担当したが、学生のニーズと学習目標を照らし合わせて概ね達成できたと思う。次年度の課題は、自由記述も踏まえ、学習内容と自宅課題をバランスよく調整する。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育実習	3	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is the capstone course for the Japanese language teaching course, in which students put to use what they have learned over the last two years within a teaching practicum. I aimed to give them opportunities to experience a variety of different teaching contexts, and was able to provide three teaching situations: online teaching with an individual adult learner with English as the language of instruction, online exchange with domestic and international students studying at universities in Hong Kong using English and Japanese, and group teaching within a fixed curriculum at a Japanese language school with Japanese as the language of instruction. My approach to the course was to encourage the students' autonomy and independence, creating an environment where they could make decisions on their teaching themselves, and creating an atmosphere where they were required to reflect on both their and their peers' performances, and to freely share their feedback with each other. After creating space for them to reflect on their own performance, I provided detailed feedback and was always sure to confirm how students revised their materials and teaching based on their own reflections and peer and teacher feedback, and to follow up on this as appropriate.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students taking the course performed at an extremely high level. As both individuals and as teaching teams, they showed that they were able to adequately prepare for their practicums making use of their knowledge of the field, reflect on their own and their peers' performances and provide appropriate feedback, and to make use of their own self-reflections and feedback to improve their teaching practices. This was evident in their performance during their actual teaching practicums, in the post-practicum feedback sessions, in preparation sessions, and in their final reflection reports. All students were able to take initiative in decision making, but were also able to cooperate with their peers and be flexible.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although it was my first time to teach this course, I felt that the approach I took worked well and created an atmosphere within which the students could be autonomous and independent, and also cooperate well with each other. (Although it must be said that this was possible thanks to the students' positive attitudes.) Due to immigration restrictions related to COVID-19, it was unclear as to whether a face-to-face teaching practicum would be possible or not, and if it were, when we would be able to conduct it, and what content the students would be required to teach targeting what kind of students. This required both myself and the students to be flexible, which is a necessary quality of Japanese language teachers. In this sense, although this uncertainty was no doubt stressful at times, it allowed the students to have an experience closer to the reality of teachers working through the pandemic, and created chances for them to learn how to deal with stressful situations and how to manage their emotions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I felt that the course could be delivered smoothly and that the key course aims were achieved. I also felt that the students were able to develop various generic skills which will be useful for them regardless of their future career choices. In 2023, I will take a similar approach, but given that the next cohort of students have been taught in their first and second years by different teachers, I will have to take into account any differences in knowledge, skills and experience between them and the 2022 cohort and make any necessary changes as relevant. Also, with the ending of immigration restrictions, we should be able to have more time to plan for the face-to-face practicum, but will need to remain flexible as there is always a possibility of some kind of restrictions being put in place if the situation surrounding COVID-19 changes.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、前期に培った旧約聖書の知識を土台として、イエス・キリストの生涯を中心に新約聖書の概要を学び、キリスト教が世界の文化に与えた影響を学ぶことを目的としている。後半では、グループごとに関心のあるキリスト教に関するテーマのリサーチを行い、プレゼンテーションを行う協働学習を行なった。また、最後には1年間の学びのまとめとして建学の精神である「感恩奉仕」について個々人が考察した。毎回の授業では聖書の輪読や紙芝居、DVD鑑賞やディスカッション、発表など、様々な形で学生が参加できるよう学びの形態を工夫した。</p> <p>②毎回授業の最後に記入するクラスポートフォリオ、チャペルの感想を記すチャペルポートフォリオにより、キリスト教の学びの全体像を把握した。</p> <p>③学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、一年間のキリスト教の学びの振り返りを行う作業をした。学びの振り返りと共に、西南女学院生としてのアイデンティティの形成、意識が高まったように思う。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>"授業評価アンケートの結果は、自分なりの目標を達成した(4.5)、知識理解に関しては(4.4)であった。到達度の自己評価の平均値は(4.6)。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの視聴率約80%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、新約聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えます。</p> <p>また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をとおして教育目標はやや達成されたと言えます。"</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「旧約聖書」の学びを踏まえ、展開している。旧約聖書の学びを前提としての発展的な学びとして新約聖書の学びを深めるだけでなく、チャペルや教会訪問を通して全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
新約聖書の内容を視覚教材を取り入れながら学び、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、学生たちが意欲的に取り組んだ。グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価についての平均値は(4.7)であった。説明が理解しやすいものであった(4.8)は、学生との双方向のコミュニケーションを工夫したことによると言えよう。
本講義は、キリスト教に興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」が(4.6)、「学生の意見を受け付け、それに答える機会が作られていた」は(4.7)であったが、2年次以降も建学の精神の土台となる聖書に日常的に親しむことができるよう、授業以外でも自ら聖書を開けるような促しをしたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

建学の精神の土台を学ぶための必修科目の位置づけであり、本学の要となる科目であるが、旧約聖書を土台に発展的に展開していく上で、旧約での学びが重要である。旧約の復習も講義に加えつつ、通常では、学生が中心となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。今年度は昨年と違いコロナも落ち着いてきたこともあり、グループ発表を再開することができ、協働学習に取り組むことができたことに感謝したい。引き続き、学生の興味関心を引き出し、聖書を身近なものとして日常的に読むよう促すことが課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探求し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。初年次セミナーIで使用したテキストの後半を使用した。また副教材書き込みテキストの後半も使用させ、自習教材として完成させた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は秀63.6%、優31.8%であった。学生の到達度自己評価を見てみると、平均値が、(1)4.5(2)4.7(3)4.4(4)4.5(5)4.4(6)4.4(7)4.5(8)4.4(9)4.5(10)4.4であった。昨年は(1)4.0(2)4.3(3)4.1(4)4.1(5)4.2(6)4.1(7)4.1(8)4.3(9)4.2(10)4.2であったので若干数値が上昇した。昨年同様の指導をしたのでアンケートの数値の上昇の理由はあまりわからないが、成績とアンケートにおける満足度を総合的に判断して、全体として「達成された」と評した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。フィードバックの自由記述欄では、昨年は、前期の個人プレゼンとは違い、グループでプレゼンを行ったことでの難しさや学びに関するコメントが15つ挙げられ、グループでするプレゼンをきっかけに、グループワークや協働の大切さを学生が体験したことがうかがえた。しかし今年は、個人ではなくグループだったので、「少し難しかった」とする意見は1人のみで、それ以外の14人がグループでのプレゼンだったので、「安心感があった」とか「楽しかった」「意見の交換ができて面白かった」などと肯定的に捉える意見が大多数であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年もプレゼンをパワーポイントではなく、Googleスライドで事前に送信しておくことを指示したことでパソコン操作がスムーズにいった。遠隔授業ではなく対面授業となったが、引き続きクラスルームをたくさん利用して、そこにレポートやレジュメ、さらには各グループプレゼンのフィードバックのフォームを利用することで、充実の内容となった。自由記述でも外部講師を招いた週がとても印象に残った、という意見があった。大人の方のプレゼンの方法を見て学ぶことはたくさんあるし、来年も機会があれば積極的に外部の講師を招致したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前期には個人で、後期にはグループでプレゼンを行ったことで、学生にとってバランスある学びになった。教材や副教材は今の所適切であると思うが、特に書き込み式の副教材については去年私の教材研究不足の反省から、今年は明確な指示をクラスルームに出すことができた。しかしながら書き込んだ内容を、授業の中でもっと学生同士の共同作業を促す工夫にまだ改善の余地があると思うことが来年度の課題である。また、プレゼンテーションの正当な評価が課題である。ほとんどのプレゼンテーションが優劣がつけにくく、プレゼンテーションの成績の明確なルーブリックの開発を必要とする。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に体力測定と体組成の測定を行ない、授業の運動量と身体組成や健康度との関係の把握を体験させる。</p> <p>②実技中は受講生にカロリーカウンターを貸し出し、各授業時間の運動量（歩数、カロリー）を記録し、運動量と消費カロリーの把握させる。</p> <p>③始業から3回の講義時間を「筋力トレーニングの方法とトレーニング機器の使い方」、「持久性トレーニングの方法と心拍数を基準とした運動強度設定」、「ストレッチ体操の方法と実用」について講習を行い、授業外に、また生涯にわたり自ら運動を処方できるよう計画した。</p> <p>④各受講者は毎授業時にカロリーカウンターを装着し、目標を持って授業に望む様に促し、自己の運動量の把握することで、運動意欲を喚起する。</p> <p>⑤1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるようにする。</p> <p>⑥チームスポーツが入学直後であることを考慮し、チームのメンバーは種目毎に入れ替え、多数の人とコミュニケーションを取るようにする。チームミーティングを試合前後に行わせ、チーム戦略立案、各自の役割、チーム員としてのポジティブな行動を実践させる。また、試合後のミーティングで改善点(課題)などをまとめ記録し、そのフィードバックの成果を実感し、チームで活動する意義を考えさせる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均79 (SD22.0) 再試対象者1人、80点以上12名 (19名中) 目標とは言い難い。</p> <p>受講動機；興味関心55%、単位確保55%、友人履修27% 必修だからではなく科目の意義関心で受講を決めたが半数おり好ましい状況に近い。</p> <p>達成度の自己評価；4.1～4.5 (4.0以上10項目/10) 高評価、自己目標の達成感をほぼ全員表明</p> <p>授業の質；4.5～4.9 (4.0以上5項目/5) 高評価、プレゼンと討論の能力の育成を加えたい</p> <p>学習量；授業時に学習記録、運動記録、試合記録をタイムリーに行うので、もっと授業中の学習の工夫が必要</p> <p>情報利用；シラバスは半数近くが参考にしている。シラバスの充実が必要。</p> <p>図書館の利用；図書館、インターネットともに利用が低い。学習方法など調べて実行する課題が必要。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について
本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識であり、また、生活信念、健康志向、美容的自己管理に関わりのある科目内容と考える。受講生は興味関心から科目を選び、高い成績を収めていたことから、妥当な内容と考える。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性について
成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高いので、もう少し内容を深く進めることができると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生が多いが、「受講動機」が曖昧な学生も存在する中、「学習到達度の自己評価」は11名(17人中)が達成できたと考えており、本科目が妥当な内容であったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習を全くしなかった者が9名(11名中)であった。
毎回授業で関心が高まっていれば幸いである。
シラバスを参考にした者が9名(11名中)、授業計画を立てなかった者が6名であった。シラバスの利用者は13名と少ない。
次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが授業準備になることを確認した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。最後の授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることにより理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネットで調べて考えた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解している層が厚いものの理解不足の学生も一定数いることが確認された。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画、雑誌で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で製作者の意図を考えさせた。おおむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。英語学科の受講生は少ないが他学科も合わせると人数が多いため、双方向のやり取りができないのが課題である。改善策としては、前回の授業課題レポートをもとに振り返る時間を確保するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識の原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的な家父長制の歴史にも触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。例年言えることだが、関連分野以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。2022年度の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科90.9%、福祉学科および看護学科83.3%に対し、英語学科では66.7%と、学科によって開きがあった。開講時点で関心意欲がそれほど高くない受講者もいることはある程度想定していたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。</p> <p>②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業内容の理解が困難となる学生が出るのが想定された。そこで毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業全体の復習を行った。</p> <p>③比較文化に関しては授業の内容だけではイメージしにくいいため、受講者達には「差別」そして「異文化対立」に関連する具体的な動画を見せた。さらにそれぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④昨年度の課題として受講者が予習復習にかける時間がやや少ないという点が挙げられた。そこで今年度の授業では授業内容に関する知識理解を確認するための小テストを2回実施した。加えて小テストを行う前の週にテスト範囲の予告を行い、予習に時間をかけるよう促した。また今年度も受講者にはテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は4つの学科にそれぞれ所属する学生が受講していたが、受講者全体の最終的な成績の平均値は80点以上であった。再試対象となる学生は数名いたが、いずれも再試験にて合格点に達したため、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り83%であった。これに関しては本試験前に知識理解を高める小テストを2回実施したことが結果につながったと考えられる。学生の到達度自己評価に関するアンケートでも、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であった。態度については昨年度みられたレポート問題の提出が遅れる受講者は、やむを得ない欠席による遅れを除いてはほぼいなかった。映像関連に関しては授業を欠席した場合観ることができないため、対応として後日こちらから映像媒体を渡し、個別に視聴させてレポートを書かせた。</p> <p>前年度の課題であった学習量の評価では「授業前の準備に30分以上かけた」と回答した受講者の数は4学科合計で70%以上であった。同様の問いに対する前年度の回答は半数であったため、前年度からさらに大きな改善がされたといえる。また「授業後の復習に30分以上かけた」と回答した受講者の数も4学科合計で70%以上であった。受講者の自由回答でも「小テストがあったことで授業後の復習時間をとるようになった」という記述があり、今回小テストを実施したことが大きな効果をもたらしたと思われる。来年度も引き続き行っていきたい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性

本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみても内容的妥当性

知識理解に関する達成度は、成績評価および到達度自己評価の平均値をみても達成されたといえる。態度についても、昨年度のようにレポート提出が遅れる学生はほとんどみられず、レポート内容自体も一定の基準値以下はいなかったことから、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価においては、ほぼ全ての項目において高い評価が得られた。ただ公欠による小テストの評価基準に関して明確でないとの回答があった。これに関してはこちらの説明不足であったと反省し、次年度からは該当者がいた場合は評価基準について明確に説明する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前年度の課題であった予習、復習含めた授業時間の向上は、小テストの実施と事前の試験範囲の予告を行う事により、先述したように大幅な改善が見られた。特に予習復習ともに30分以上の時間をかけたと回答した学生の数が全体の70%以上いたことは、これまで数年間の授業評価結果をみても過去最高の数値であった。小テストの実施と事前予告は授業時間の向上に非常に効果的であるということが判明したため、次年度も引き続き行っていきたい。

今年度の課題としては本試験、小テスト評価の明確化があげられる。これに関しては、小テストについては採点后に点数を表記して返却し、質問のある学生に関しては個別に対応していく。本試験については次年度より試験終了後に模範解答を提示することが必須となったため、この方法で改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル発展	1	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」83%、「単位数を確保する」42%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由には、「どのようなことをしたらいいかわからなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をすることで自習を促す。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは12名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては83%、機能表現は90%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかり把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演やさまざまな資料等から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることを社会の中でどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では全ての項目について全ての学生が、肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は達成されたと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、全ての学生が全ての項目について肯定的な回答をしており、一つの項目を除いては中央値が5であった。中央値が4.5であったのは、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目だった。200名を超える学生が履修している授業なので、学生が発言する機会を設けるのは難しかったが、その代わりにさまざまなアプリ等を活用して、学生が自分の考えを述べる機会を設けるなどしたが、毎回行えなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域プロジェクト	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As the syllabus states, this course was crafted around community involvement and current environmental issues. Using Sustainable Development Goals (SDGs) as a backdrop, and a number of community NPO activities as a focus, we created activities and materials to highlight the issues which these groups are seeking to fix. This year we collaborated with the Tourism Department on a series of activities. We began with a focus on SDGs with games and other activities. Then we moved onto our joint project related to the Motena-Sea project. Assisted by Takahashi-sensei's zemi, the students worked on a number of projects that could be used once the boat is launched.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>This was a very good class. Grades showed a range from a minimum of 75% to a maximum of 95%. The average grade was 85.6% with a standard deviation of 894. Grades were largely determined by effort and results in activities, with a final scoring based on their final presentation. No students failed the course.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

All DPs were strongly achieved this year. The students showed great willingness to participate (DP3) and had a very positive attitude to their studies (DP4), even when working with other department's students. Their knowledge and understanding (DP1) of the issues definitely increased during the course of the class. With these in mind, it seems reasonable to assume that all three DP goals were well achieved.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For this coming year, despite the successes in working on the Motena-sea project, we will probably move the focus to more local projects, particularly based in Kokura. We feel these are more in line with the needs and desires of the students and they will also enable them to achieve more realistic goals.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

For the coming year, we will again focus our assessment on the activities completed and the efforts of the students to complete tasks in a collaborative and creative way.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目で、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、講義をすべて対面で実施することができ、昨年度と比べ学生とのやり取りも反応も見ながら進められた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いために個別的な対応がすべての学生とはできなかった。次年度はより多くの学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実践英語音声学Ⅱは、前期の実践英語音声学Ⅰに続く科目で、英語学科1年生後期必修科目である。前期に英語音声学に関する母音や子音およびリズム・イントネーションに関する素地ができており、後期はより実践的な演習や発音練習を多く取り入れ、わかりやすく応用可能な授業を心掛けた。同時に、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキル指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには「前期から詳しく英語音声について学べて良かった。会話やリスニングの際にもいつでも活かすことができるのでこれからも復習などして身につけていきたい」、「新しい知識を沢山知れました」などの意見があり、また、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「日々の英語に触れる機会やスピーチコンテストで音声学を意識した発音を心がけた。」「授業で学んだことを、リーディングの授業で音読したり、コミュニケーション英語の授業で意識しながら会話したりしました。」などがあり、学生たちは積極的に授業に参加し、その後の日常的な英語運用にもつなげる努力をしていることがわかる。今学期の授業を通して学習した発音やリズムに関する理論や技能を、今後の英会話や英語学習において日常的に役立て活用することを引き続き指導するとともに、学生たちのますますの成長を期待している。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.9、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.9、「説明は理解しやすいものであった」は4.9、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.9、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.9と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.2、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.3と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力および音声認識力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語の発音やリズムの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションⅡ	1	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座の担当は初めてだった。指定教科書の問題量が莫大で、毎年担当している教員の進め方を尊重したいと思いつつも、すべての問題を消化するのは無理と判断して、学生に取り組ませる問題数を格段に減らした。各ユニットにおいて、問題集作成者がどのような視点で項目をまとめているか大きな視点を持たせることに尽力した。毎回の小テストは踏襲した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価 最低値3.5 最高値4.2（複数） 授業の質平均値 ほとんどが4.5以上 学生一人一人の基礎文法力にもともの大きな隔たりがあるので、全員の知識理解が大幅に向上したとはいづらいが、興味を持って授業に臨み、理解が増進したことは十分にうかがえる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

入学段階において、基礎的英文法力はまだ身につけていないので、位置づけは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

文法力の取得には確かに量をこなすことも大切ではあるが、文法や言語に対する視点をしっかり持たせることも重要である。ただし、中学高校で決して英語力が高くはなかった学力層相手に、きちんと文法力を持たせるのは至難のわざと言える。常に改善を求め続けるほかない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

十分満足のいく授業だったと自負している。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC 550-600点以上を目指し、その出題形式・傾向に合わせた問題演習を豊富に行った。毎回実施したミニテストで語彙力強化を測った。受講者には毎週テキストから切り取り課題のリスニング問題を提出してもらった。学生全体の中間的レベル~ややハイレベルを想定した目標スコアを設定し、TOEICの出題形式・傾向に即した実践的練習に重点を置いた。特筆すべき受講動機には「資格取得に必要である」21.1%、「関心のある内容である」15.8%である。英語学科ではTOEICなどの外部試験の成績が就職におけるアピールポイントとしての資格として重要であることを学生は認知していると思いついていたが、数値が低いので、改めて話す機会を設けようと思った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された~達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の評価割合は、秀22.7%,優22.7%,良36.4%,可13.6%である。成績の明暗を分けたのは、主に毎回の課題とミニテストの点数であった。これは、十分に時間をとって学習すればそれだけの成績がでる内容であったので、頑張っって良い成績を収めた学生が、そのぶん実力も身につけて、成績として評価されたことの証である。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生アンケートの到達度自己評価は(1)3.9,(2)4.4,(3)3.9,(4)4.3,(5)4.2,(6)4.3,(7)4.3,(8)3.7,(9)3.8,(10)4.1であった。(9)(10)の項目でハイスコアを得ることはもともと期待していないが、(10)が意外に高い理由として、英語学部試験の結果を重視するような企業はやめようという諦めの気持ちを生んだのではないことを折りたい。というのも、(1)があまり高くなかったからである。半期だけの期間で、急にTOEICでいい点を取るの難しく、この授業はあくまで、スタート地点に立つための授業であるので、前述した今後も受験し続けるシステム作りをすることで、学生も成功体験を経験し、幅広く就職活動を行うことにつながればと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価は、(1)で⑤を選択した学生が11名と最も多かった。(2)でも⑤が8名と多かった。自由記述欄の授業の課題以外に具体的に組み込んだ学習としては、「単語学習」「TOEICの単語帳」など単語に関するものが多かった。しかし、授業課題のレポートを・・・次のうちどちらかを選択：

- ・実際のTOEICを個人で申し込んで、受験したことがわかるスコアレポートのコピーし、裏面に自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く
- ・TOEIC公式問題集の1回分を解答し、添削し、解説を読んで分かったことや、自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く、としており、授業課題とはいえ、真剣に取り組めば、自学の領域に達する内容としていたので、総合的に判断して、学生はたくさん学習してくれたと結論づけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

使用したテキストの補助教材も充実していて、全体としては満足のいく授業を行えたと思う。できることなら以前のようにもっとTOEICのコースが細分化されていればさらに学生のニーズにあった授業が行えると思う。自由記述欄の「担当教員への意見」としては、「単語をたくさん覚えることができました」「TOEICのスコアを頑張ってあげたいと思えました」「授業でしっかり問題を分析したくさん問題をとてたことがとてもよかったです」「問題を解くスピードと、リスニング能力が、履修する前より伸びたと思う」など肯定的な意見があった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習 II	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>TOEIC650-700点以上を目指し、その出題形式・傾向に合わせた問題演習を豊富に行った。また毎回実施したミニテストで語彙力強化を測った。毎週覚える単語数は、80ワードくらいで、学生たちは毎日平均10単語くらいを覚えてきた。そして受講者には毎週テキストから切り取り課題のリスニング問題を提出してもらった。受講制限は設けなかったが、受講基準を「TOEIC600以上の英語力」としていたので、結果的に10名の学生が受講した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の評価割合は、秀40%,優30%,良10%であった。成績の明暗を分けたのは、主に毎回の課題とミニテストの点数であった。これは、十分に時間をとって学習すればそれだけの成績がでる内容であったので、頑張っって良い成績を収めた学生が、そのぶん実力も身につけて、成績として評価されたことの証である。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生アンケートの到達度自己評価は(1)4.0,(2)4.7,(3)4.3,(4)4.4,(5)4.4,(6)4.4,(7)4.4,(8)4.2,(9)4.4,(10)4.3と概ね高かった。自由記述欄には、「この授業は一番大変な授業でしたが、たくさんの単語を覚えるきっかけになったのでよかったです」「この授業を通してTOEICのリスニングになれることができました」などと、語彙力とリスニング力が伸びたという意見が目立った。TOEIC演習Iのハイレベル版として、就職活動で外部試験の結果をアピールできるようにする授業の立ち位置も踏まえ、内容的には妥当であったと判断する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価は、(1)で⑤を選択した学生が8名と最も多かった。自由記述欄の授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習としては、「単語学習」「TOEICの過去問」など(結果としては)課題に関するものが多かった。授業課題のレポートを・・・次のうちどちらかを選択：

- ・実際のTOEICを個人で申し込んで、受験したことがわかるスコアレポートのコピーし、裏面に自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く
- ・TOEIC公式問題集の1回分を解答し、添削し、解説を読んで分かったことや、自分なりの分析(今後の学習目標など)を書く、としており、授業課題とはいえ、真剣に取り組めば、自学の領域に達する内容としていたので、総合的に判断して、学生はたくさん学習してくれたと結論づけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生たちはこの授業のために単語をたくさん覚えたり、授業で使用するテキスト以外にもレポートという形でTOEICの問題集を解いたり、限られた時間の中で、自発的によく勉強していた。教員が、英語教育の勉強会(特にTOEICに特化した)などにもっと参加する時間ができることを切に望む。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅡ	2	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Thankfully, this course returned to face-to-face status, so we were able to continue the work started in Semester 1. We continued with the self-paced learning course with students moving through the material and not being able to access advanced material until earlier assignments had been completed. During that time, students had to attend specific workshops on skills they needed to learn. We still ended the course with a final project presentation, but, again, their level improved immensely!</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Class A achieved an average grade of 87.17% while Class B achieved 90.40%. Lowest passing score was 84%, highest was 93%, with a standard deviation of 3.02. Each section of the course was divided into tasks that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. Grades were overall higher than the previous year.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Knowledge and understanding (DP!) of the design and implementation of good presentation remained strong. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their generally positive attitude covered DP4. Overall, the students who passed the course satisfied the criteria of all the DPs.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Research and investigative skills remained weak this past year, so once again there needs to be more focus on research and finding a deeper level of material for their presentations. Although their presentations and performances has been much improved, the content of what they work on still needs much work. Research-based activities should help alleviate some of those issues.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

For the coming year, we will work more on peer-centric evaluation and self evaluation. Part of this will revolve around developing a full set of evaluation rubrics that the students can apply to the evaluation of their work. This will be backed up by fuller feedback from the teacher.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅡ	1	後期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of 英語コミュニケーションI. The main goal is to reinforce the main points presented in the first semester. Various activities are used to give students the opportunity to use and reinforce communicative language techniques. Topics and scenarios connected to interaction with non-Japanese are presented. The students were engaged participants who improved their skills as was hoped for. All the interaction within the course is also a good opportunity for students to build a community amongst the students.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The goals for this course were achieved overall. Almost all students in the higher group received either an A or S in the course, while most of the students in the lower group received either an A or B. This is indicative of their effort and interest in the course, as reflected in their evaluation of 4.6 and 4.5 respectively.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course is well placed on the curriculum map and serves as an important step towards the other communicative classes. Seeing that the students had a positive attitude and interest in the course is a good indicator for future communicative courses. This course, as stated above, also helps to create a sense of community amongst the students.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The class is highly evaluated and plays an integral role in their preparation for further communicative classes. The course works well at the moment and there is no need for any major changes. They all had a good attitude and tried sincerely. Perhaps showing how what they learn in this course can be applied in their other classes and future classes made the material more relevant to them. One thing to consider would be how to make the course a bit more challenging in the latter part of the semester for those students who have mastered the material and skills presented in the course.

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

The course was a success and generally provided a good grounding of communicative skills for future development. The students did well and their attitude and performance was very positive. It is hoped that they will apply these skills in their future studies.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションⅡ	2	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The course aim continues to be the same: To help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study.</p> <p>Students completed the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students completed all the required work in a timely fashion. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Generally, the students worked to achieve this. The level of cooperation in the class was high, and all students made efforts to express their opinions in English, and to ask for clarification and assistance if they were facing problems. Some areas were difficult, and further focus and development of skills are required, such as the ability to apply critical thinking to the issues under study.</p> <p>All students passed the class, scores ranged from 60 to with a average final grade of 79 (SD = 9, N =17) and median = 79. Only 1 student received a mark below 70; this was due to attendance problems. Just under 50% of the class received a grade of over 80, with four students students scoring 90 points or higher for the final grade.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. They actively took part in the required discussion and presentation activities. Overall they made good progress, and seemed to enjoy the class. Final grades for the class ranged from 60 to 88. The average grade was 80, with a median of 84 (N = 13, SD = 9).

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on having students present their ideas in the form of short presentations. Unfortunately we sometimes did not have enough time to devote to this as planned, so need to work on better time management in this respect. Overall though, the students were able to use the target language to present their opinions in a clear and coherent manner, were willing to share their opinions with their classmates, and showed general understanding and ability to work with the target language.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

I will not be teaching this course in this academic year, so have no suggestions to make here.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グローバル英語 II	4	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aims of this course were to learn to critically engage with the media and news, to think about the importance of and the roles of independent media and journalism, to learn about important news stories of the past and the present and to investigate background issues in order to deepen understanding, and to further improve students' English skills. As such, the course was conducted entirely in English, students were given opportunities to engage with and discuss a wide variety of real-life materials, and there were many opportunities for student-led discussions and presentations. The appropriate class sizes and positive attitudes of the students allowed the course aims to be achieved.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Overall, most students did well in the course, with a number of students showing particularly high levels of analytical analysis and understanding of the course aims. Although there were differences in achievement which were connected to their different levels of English proficiency, all students made an effort to engage in English during the course and to improve their English skills which was seen in their continuing improved performance in the various class and assessed activities throughout the semester.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although the course content was quite challenging, and aimed at students with an advanced level of English, the appropriate student numbers and cooperative attitude of the students helped greatly in achieving the course aims. I also tweaked the activities and provided different levels of scaffolding to better match the differing levels of the two classes.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, despite the differences in their English proficiency, experience levels, and confidence, each student strived to improve in their own way, and their positive and cooperative attitudes were really key to the success of the course. That said, I felt that the level of the course was pitched too high for the lower class, and I plan to change the focus of the course to address this issue.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングII	1	後期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students improve their reading. During the scheduled class time this involved learning and practicing reading strategies, and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used to provide students with reading material and grade out-of-class progress. Students were also asked to keep a record of their weekly goals and short reflections on their progress.</p> <p>Most students engaged in the class seriously, and kept up with the required work. The class is quite challenging, but students generally accepted this worked to complete the requirements.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. As with past years, one challenge is with getting students to do the outside reading regularly due to numerous competing demands for their time. Two students failed the class due to overall poor levels of performance. For those who passed, the average grade for the class was 82 (n = 19, sd = 11) and a median of 88. Seven students received a grade below 80.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course requires a lot of outside reading time. The level of participation was generally high, with a clear understanding of and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. The students who focused on the classwork and managed to meet their regular reading goals seemed to have been satisfied with developments in their reading speed and understanding. Some students found the content of the textbook to be quite difficult due to low levels of vocabulary and slow reading speeds. This can have problems with the pacing of the class, as some students had trouble completing the classwork in the time available.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This has not changed from previous years. The course is very much focused on attaining the required goal of reading large quantities regularly and demonstrating comprehension of the material being read. Switching to a system where students were expected to meet weekly goals, and adjusting grading based on this, seemed to help overcome past problems of some students not reading regularly or sufficiently to see any possible benefits from the course. However, at the same time this can be problematic in that it is promoting avoidance goals over a more positive approach to the required tasks. However, it is difficult to know what other approaches to take, especially for students who have poor time-management and self-regulation skills, or heavy workload from other courses alongside outside factors. We used a new textbook in class in this semester, focussing on reading strategy use. While students showed they could understand and apply these in class, it is unclear how this transferred to other contexts.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I will not be teaching this course in this academic year, so do not have suggestions to make here other than to ensure that students are reading regularly, and helping them to notice any advances they make in their English ability as the course progresses.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
リーディングⅣ	2	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>特に重点を置いている点は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の主旨や目的が推測できる。詳細が推測できる。 ・意味を読み取ることができる。言い換えがあっても、事実に基づく情報が理解できる。 ・文章全体にわたる情報を関連づけることができる。関連する二つの文章のつながりを理解できる。 ・幅広い語彙、よく使用される単語の例外的な意味、慣用句的な使い方が理解できる。また、似たような意味で使われる複数の単語を区別することができる。 ・規則に基づいた文法構造が理解できる。また、難しく、複雑で、あまり使用されない文法的な構造が理解できる。これらの能力を身につけるために、この講義の受講資格は今回は設けなかったが、TOEICの教材を使いながら精読・速読の両方のハイスキルを身につけるよう指導を行なった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績は秀22.2%,優38.9%,良16.7%,可22.2%であった。成績と授業アンケートの到達度自己評価によると、「自分なりの目標を達成した」と感じている生徒は、平均値が4.0であったことから「やや達成された」と評した。また、学習量の評価では、13人中7人が、6回以上一回30分以上の準備をしたと回答している。これは、単語テストのための準備と思われる。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業アンケートの達成度自己評価は最も高いものが(4)(5)(6)(7)4.2で最も低いものが(9)3.8であった。ひたすら読解力を身につけるのがこの授業の目的であり、それ以外の付加価値 ((1)(8)(9)(10))などにはあまり焦点を当てていなかったため、内容的には評価は妥当であったと思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では(1)4.6,(2)4.6,(3)4.5,(4)4.6,(5)4.5であった。去年は、(1)4.6(2)4.7(3)4.5,(4)3.9,(5)4.4であったので若干の数値の上昇が窺えるが、内容的には同じであった。18名の受講者中、アンケート回答者が13名しかいなかったのが、残念であった。来年は授業の最後ですぐ回答するように促したい。しかしながら自由記述欄にはたくさんコメントがあった。例(一部)：「TOEICの勉強方法があまりわからず悩んでいた時にこの授業を履修しました。この授業を通してどのように解いていけば良いか、勉強していけば良いかのコツを少しずつ掴めてきたと思います。先生の説明や解説も分かりやすく、文法やリーディングに苦手意識がありましたが改善できてきたと感じています。」「この講義を受講して読む力が前よりも成長したと感じます。」「この授業では特に長文問題の読解スキルが成長したと思う。授業を受ける前までは長文問題が少し苦手だったが、授業の中で解き方を知りまた問題を解く回数が大幅に増えたので正解率が上がった。」

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今回は受講資格を「TOEIC500以上が望ましい」としたことで、それ以下の学生も受講して、いろいろなレベルの学生が混在するクラスとなったが、ハイレベルの問題であってもほとんどの学生が、「説明は理解しやすいものであった」が平均値4、5と理解していたようで、良かったと思う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度も今までの経験を生かして比較的スムーズに授業を展開することができた。説明をなるべく単純化し、学生達にとって身近な具体的例を準備したことが、成功の秘訣であったと思う。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>講義内容は抽象度の高いものであるが、学生達は皆熱心に理解しようと努めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。皆熱心に受講した。授業後の質問も多く寄せられ、熱心さを裏付けていた。評価中央値全項目 5.0</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

妥当である。英語学概論は英語学科生としては必須の科目であるが、入学直後の1年生に設置するよりも、2年生に設置するのはふさわしい。最初の1年は英語運用能力の養成を前面に出し、学科になれさせ、その後学問的な分野に触れさせるのがよい。また本学の学生のことを考えれば、1学期で言語学の代表的領域を講義するのではなく、1年かけて講義するほうがペース配分として適している。その意味でまず英語学概論Iを前期で実施し、後期でIIを実施するのは妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

言語や文化に対する興味を広げたり、深めたりすることが、授業の最大の目的であり、その点は十分満たされている。自由記述には「非常に興味深かった」という記載が複数あった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

十分満足のいく授業だったと自負している。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course is to improve students' paragraph writing skills and to introduce them to English essay writing structure, as preparation for the academic writing course in their third year. In particular, this course looks at the various types of paragraphs available to the writer so as to have students be capable of writing in various styles and for various purposes.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>About half of the students managed to get a grade of A or higher. This is an area where lots of students have difficulty. The scores were a good reflection of the effort that the students put into their work. In general the writing skills improved significantly considering the gradual increase in difficulty in complexity of getting their ideas onto paper in a foreign language without the use of translation software. Putting aside a couple of exceptions I think the course was successful in attaining its goals.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DPS 1 and 5 were met

for the reasons pointed out in the section above. Although DP4 is not as important in this course as the focus is not on the content of the writing as much as the need to understand the skills involved in the writing process and the collaborative aspect of peer editing and support. Although not directly instructed to, many students displayed aspects of DP4 in their writing, which may reflect the ideas other courses have instilled into them, suggesting good inter-program connectivity. Within the curriculum map it is felt that this course could benefit the students more if it were placed earlier in the program.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Improvements made to the course over the last few years have made this course much more effective. Apart from a couple of students, this year's group were also particularly diligent and there were fewer problems of assignment completion. It is felt that no significant changes need to be made to the course itself, just the regular adaptation to the abilities and needs of the students.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

It is felt that the course is successful as a result of the effort and improvement that the students show. The one challenge is in maintaining the students' interest with activities that they can relate to and find applicable to their future. It is also important to provide them with regular feedback and support in order to claim success with this course.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
パラグラフ・ライティング	2	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期の「ライティング基礎」の授業担当者と連絡を取り、同一教科書の中での進み具合を確認した。そのうえで、「パラグラフ・ライティング」から「エッセイ」の指導がスムーズに進むように心がけた。「エッセイ」の構成には、テレビコマーシャルの展開などを例に出し、英文で説明することにこだわらず、理解を重視する準備をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価と授業評価の平均値はどの項目も4.5 - 4.8である。授業での反応や課題提出物の中身を見ても、理解していることが伝わってきた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

入学時から英文法の復習と和文英訳（短文）、2年前期でライティング基礎、と流れを組んでいるので、妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

8年間も担当を続けており、自分なりに教え方は確率している。学生も満足している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

十分満足のいく授業だったと自負している。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語文学 II	2	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新カリキュラムになり選択科目になったとはいえ、選択肢が少ないので、文学を勉強したい学生もそうでない学生も受講することとなり、受講動機として④が69%である。しかしながら受講動機の③が75.9%と最も高いのは好感的なデータである。そして、必修ではないが、受講人数を見てみると半分以上の学生が選択していることがわかる。どのような学生にも文学の知識や楽しさを教授できるように工夫している。しかし残念ながら⑦先輩に薦められて受講したと選択した学生はいなかった。（しかしながら他のアンケートを見てもこの数値はほぼ0である）</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価においては、(6)で4.6であり(2)(4)(5)(7)で4.5で概ね高かった。(9)は前回3.6で毎回低めの評価となるが、今年は4.2とまあまあ高かった。英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目である。評価が昨年4.0であった(8)において、今年は対面になったという点も上げることができるが、4.2と上昇していた。ただグループディスカッションなどをもっと促す機会を来年はもうけたいと思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）」の評価では、0回の学生が16名で、1回の学生が13名であった。そして、学習量（課題以外に取り組まなかった）においては、ほとんどの学生が「時間がなかった」などと回答している。またきになる回答として、「何をすれば良いかわからなかった」と記入した学生が2名いた。一方、課題以外の学習にとりくんだ学生の意見としては「気になった題材は調べた」「和訳を見直して復習をした」「授業で扱った作品をもっと詳しく調べた」「原作ではどう書かれているのかを見比べた」「関連する映画を見た」などと素晴らしい内容があり、これらの自主勉強をテストなどで、表現する場を作ってあげられなかったことを残念に思う。（テスト勉強となると、自主勉強ではなくなるというジレンマはあるが。）課題をたくさん出しており、その課題でDP,CPを達成するよう意図していたので、総合的に見て内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質の評価」は(1),(2)(3),(4)が全て4.6で,(5)4.7であった。この授業では、対面になったとはいえ、遠隔授業で使用していたクラスルームを課題提出の場や、資料アーカイブを閲覧する場として毎週使用しており、遠隔授業での経験が生きてより充実の内容となったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、総合的には「達成」であり、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。今回は、授業アンケートの自由記述欄に学生たちがたくさん肯定的な感想を書いてくれた。その中でも、文学を前期・後期と継続して行った自分の成長や、和訳の面白みや文学への興味関心への気づきが目立った。例（一部）：「訳す時にみんなに伝わりやすい表現ができるようになった」「知らなかった表現を覚えた」「自然な和訳をすることができるようになりました」「物語の奥にある背景を考えるとということが習慣となりました」「読むことができてよかったし、もっと他の英語文学も読んで見たいと思いました」など。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	齊藤 園子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通訳に関心がある学生の受講が多いため、専門性を生かして通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを身に付ける機会を提供することを旨として授業を実施した。合わせて英語力の総合的な向上も本授業の目標として重視した。授業準備量は多くなるため、第1週の授業で説明した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講者の多くが授業課題の予習復習に丁寧に取り組み、通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを一通り身に付けることができた。受講者の取り組みを高く評価したい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

該当DPのいずれにおいても要件を十分に満たす科目となったと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講者の英語表現力や技術力が多様であることを前提に授業運営をさらに工夫するとともに、授業の目標設定について一層細やかな対応を行っていき

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

概して教育目標は達成された。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is a continuation of the Media I course that students worked on in their first year, though it extends their skill level. The course was run in the iSwitch Mac room, 6208, so we were able to use the facilities there to complete a wide range of media projects. The students also used their home PCs and their own smartphones as extension tools, facilitated by access to the Google suite of tools and the My Study portal. During the course, they completed a wide variety of projects, such as research, using SNS, filmmaking, surveying, and storywriting - all in English.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Completion of Activities, and a Final Presentation. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades, with some exceptional students achieving high grades. The average grade was 82.79% with the lowest being 69% and the highest being 97%. The Standard Deviation was 7.80%.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Overall, the remaining students covered the requirements of DP1, DP4, and DP5 well. This was a very motivated class because of the practical and creative nature of the classes. There was a strong collaborative and social nature to the activities, meaning that students could share their strengths and get assistance with their weaknesses.

This was also a class where they could show their creative side, and many of the projects they completed reflected this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This coming year we will have a smaller number of students from what seems to be a well-motivated cohort. I intend to continue tailoring the programme to offer students a greater variety of activities and a choice of which to do. Basically, each class would revolve around a topic or skill area, there would be a workshop for students to take part in, and from there they could choose from a menu of relevant activities. I think this system would serve their needs better, particularly in the Mac room.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

This can be a class that is difficult to get a fair assessment of student skills because of the variety of skills, interest levels, and motivation. This will need to be taken into account again, and with the continuing use of customised rubrics, this should be achievable. As the course is task- and project-based, there is definitely more scope for personal and peer assessment, and I hope to build these even more fully into the assessment system. Many of the activities we do are either easy to self-assess because students can either complete or not complete them, or there is a creative element which they should have more say in self-assessing.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用時事英語	3	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年と異なり、15回の授業すべてが対面となったが、今年は昨年の反省や知見を授業に反映できたと考えている。前期の時事英語入門と同様、難解というイメージを伴いやすい分野に対して、より深く興味・関心を持ってもらうために、英語そのものだけでなく、取り上げた内容に関連する背景知識にも言及するようにした。また、社説など比較的長い論説記事を毎回取り上げて、応用クラスを受講しているという満足感や達成感をもってもらえるように心がけた。さらに、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や発表なども数多く行い、担当教員と受講者間での双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中22.3、定期試験の平均値は50点満点で22.5点で、いずれも昨年よりもスコアが下落しており、教育目標はやや達成されなかったと認識している。その一方で、他の担当科目でも生じた現象だが、本科目においても受講者間の得点差が大きかった。特に中間試験に関しては、前期でも出題したウェブサイトから同じ形式の問題を出題したにもかかわらず、数名の学生の正答率が極端に低かった。そのことが中間試験の平均点を押し下げた要因とみている。また定期試験に関しても前期同様の形式で出題したが、設問数の多さと難易度のバランスを欠いたため、昨年よりも平均点が下がってしまった。積極的に授業に参加している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点の配点に対して10.4という平均値が出ている。これも一部の学生が欠席過多さらに出席しても発言がなかった点が原因である。出席した受講生間では、意見交換などを行ったものの、全員がそれを達成できたかという点に関しては、疑問と共に改善の余地があると分析している。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

政治や経済に代表される時事的内容は、日常生活を送るうえで学生が意識的にふれる機会が少ない分野である。新聞、ネット、テレビなどのメディアでその一部を見聞きすることはあっても、それらを英語でどのように表現するのか、というところまではフォローできていない。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

担当教員への意見としては、件数は少なかったが、受講人数が少なかったことが奏功したようで、「授業内で扱う記事に関連した話が多く、大変勉強になった」「他の学生さんの意見を聞く時間もあって、ためになった」など、好意的な意見が寄せられていた。今後も受講生と双方向性をもった授業を展開していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展させていく、という目標は達成できたと思われる。課題としては、欠席過多の学生に対して、学科教務委員の先生に対応をお願いするだけでなく、自らもメール等で積極的にアプローチを試みるなどして授業への参加を促していきたい。そのためには、学生が快適に授業を受講できるような雰囲気づくりであったり、担当教員の「人間力」を向上させる取り組みが必要であることを痛感している。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションII	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course was a continuation of 異文化間コミュニケーションI held in the first semester, but looking at the topic from two specific angles: "tabunka kyosei" in the context of Japanese society, with a focus on immigration and issues pertaining to foreigners and people with multicultural roots, and English as a (Business) Lingua Franca. I tried to make the content more accessible and relatable through inviting guest speakers, using multimedia and internet resources, incorporating research-based activities, and real-life materials and resources.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The majority of the students showed an understanding of the course content through their submitted assignment activities and end of semester reports. In 異文化間コミュニケーションI in the first semester, quite a number of students demonstrated a lack of understanding of how to write an academic paper, and I worked specifically on this in the first week of this class, providing various resources for the students to make reference to when researching for and writing their final reports. This led to improvement in the quality of many papers, but this seems to remain an issue for some students.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problem regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

While I felt that the majority of students engaged well with the material, I am concerned that the course became a bit theory heavy at times. I would like to continue to think about how to incorporate a more practical focus to help students more deeply engage with the course content.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Overall, I felt that the students engaged well with the course, but again, I would have liked to have incorporated a more practical focus, with more discussion and practice-based activities. I feel that doing so would have led to even more engagement and understanding of the course content. I will continue to think about how to balance the theoretical aspects of the course with discussion or practice based activities that will hopefully help students taking the course to engage even more deeply with the course content.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ II	2	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course is for the students to research and learn more about a particular area in the world and its significance with Japan. The increasingly important region of ASEAN is the focus of the course with a range of topics being introduced, researched and presented about. Student centered activities intend for the students to learn in more depth about the region and to improve their ability to convey their research results to their classmates. It is also hoped that the students will improve their note-taking skills and their ability to make further inquiries about the material presented by their classmates.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	As the course requires a lot of work and preparation continuously throughout the semester there are a wide range of results. It was, however, reassuring to see that three-quarters of the students received a score of A or higher. This is a reflection of the interest and effort they put into the course. A score of 4.5, the highest score in this section, was given for acquiring new knowledge, which indicates the achievement of the course's goals. This is further supported by their use of the internet for research purposes, as well as the large amount of regular work they put into the course for review and preparation.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course aims and contents match well with the DPs as described above. The course is also well placed in the curriculum map as it takes advantage of the skills taught in other courses to fulfill its aims. There were no particular issues that required reworking the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

With the course evaluation scores in the 4.4-4.5 range, as well as the time and effort that the students indicate having put into the course, leads me to believe the course was a success. Although there was a lot of work for them to do, the majority of them rose to the challenge and did good work, as the 75% of A or higher scores would indicate.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

It is felt that the course was a success. Maintaining student motivation and interest throughout the semester is the biggest challenge. Being back in the classroom for this course has helped a lot to increase peer to peer interaction during and after presentations.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、国際関係論の基本的な知識を身に付け、世界情勢を眺め、論じる際に依拠する「自分なりの視座」を獲得することを主たる目的とした。高校時代に世界史・日本史を履修していない学生も多かったため、国際関係史の基本的な事項の解説を含め、歴史の流れを理解してもらえよう努めた。</p> <p>ただ内容的に就職や資格取得に直接かわるものではないため、事前学習や復習を促す動機づけに乏しかったようだ。来期は、世界の経済動向にかかわる内容を増やし、彼女らが興味を持っている業界や事象を積極的に扱っていかうと思う。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>テストの平均点は71点、再試対象者は1人であり、本講義の目標である「国際関係論の基本的な知識を身に付ける」という目的はおおむね達成できた。ただ、授業中に習得した用語や概念を使用して自身の考えを披露してもらう記述形式の問題の平均正答率は3割弱と押しなべて低く、「世界情勢を眺め、論じる際に依拠する自分なりの視座を獲得してもらう」という第2の目標に関しては達成できなかったと自己評価している。その原因としては、国際関係云々のまえに、ものを書く技法・作法がまだ十分に身に付いていないことが考えられる。今年度は、最終試験以外にも、レポートなど一定の量を書いてもらう機会を設け、添削・寸評などのフィードバックを実施し、書く技能を身に付けてもらうよう取り組んでいく。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性
本科目は、人文学系の学科内に設置された社会科学系科目に位置づけられる。しかし、国際関係論という学問の特性上、そこには政治学・経済学・歴史学・社会学・心理学・地域研究などのさまざまな学問的アプローチが内包されている。これら多岐にわたる学問的アプローチに触れることは、英語学科で文学・歴史学・言語学を学ぶ学生にも有益であり、内容的にも妥当であると考えられる。

②DP、行動目標から見ての内容妥当性
学習到達度の学生からの評価でも概ね肯定的な評価を得ることができた。4年生の学生からは、「専門分野は違うが、本科目で学んだ知見を卒業論文で活用した」との声や、NGOで活躍する学生からも「自分たちの活動の意味を考え直すきっかけになった」との意見をもらうことができた。これらの点からもDP・行動目標の観点からも妥当であると考えられる。

③まとめ
以上から内容妥当性には問題がないと考えらえる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の学生からの評価は、幸い「国際問題に関心を持つようになった」「楽しかった」という肯定的なものであった。ただ、彼女らが抱える現代的な興味関心に比べて、授業で扱う題材が時代的に若干古いものであった感否めない。今年度の授業では、授業で扱うケーススタディを全面的に見直し、学生たちにとってより馴染みのある題材をもとにして授業を進めていこうと思う。

学生からの授業中の発言は活発であり、内容的にも興味深いものが多かった。(2)で記したように、今後は、そのユニークなアイデアを文章でも説得力ある形で表現できるよう、レポート・コメントカード等を利用し、学生の文章力を涵養する機会を設けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の目標に関しては、成績やアンケートの状況から概ね計画通りに達成できていると評価できる。ただ、このような状況に甘んじることなく、受講生の達成状況がさらに上昇し、彼女らの知的興味・達成感をさらに満足させられるよう、講義内容を精査していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「資格取得に必要」16%「関心のある内容」67%「単位数を確保する」75%である。前年度からの変化として、資格取得を目指して受講しているわけではないことが示唆される。しかしながら、関心のある内容ということで、興味をもって授業に臨んでいたことがわかる。「単位数を確保する」という動機は最も多く、75%を占めていた。この科目から想像される内容が分かりやすく、取り組みやすい科目であると意識していたといえる。それらの想定を活かし、授業では、高校まで学習した内容とつながりを持たせながら、知識を深めることとしていた。②毎回確認テストを行い、学生や復習したり予習したりできるような時間を設けた。③昨年度は、課題間の連携を持たせること、全体の授業計画の見直しについて十分に周知することを改善点とした。今年度はシラバスを一部修正し課題解決に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者はおらず、全員が標準的なレベルに達した。しかしながら理想的なレベルに達したのは10名と全体の15%ほどだった。学生による到達度自己評価においても、平均すると9割の学生が、自身の目標を達成できたことおたえている。学生による授業評価においてはルーブリック評価を用いたことで、具体的な行動目標を評価基準として、授業内の早い段階で示した。そのことによって、知識のみならず、知識をどのように活用していくかについても重要であることを気づいてもらうことができた。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP上の位置づけ…本科目は、資格取得に役立つ科目であることに加え、高校まで培ってきた知識をさらに深める科目である。様々な目的の学生がいるため動機付けに苦慮したが、CPの位置づけを意識し昨年度同様授業作りを行った。②DPからの位置づけ…多くは、自分なりの目標を達成したと答えている。さらに、「知識を確認、修正したり、新たに得た」と評価した学生が多く、「さらに学びを深めたいと意欲を持つことができた」学生は、平均して4.2～4.0だった。その結果、学生も一定の成績を取得していることがうかがえる。③まとめ…以上のことから、内容的妥当性は担保したと判断した。☒

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度から、インターネットでどのように調べるかという情報収集の在り方も授業内で紹介している。リソースを活用することで、授業外でも自然に学ぶことができています。自由記述に見られるような個々の関心興味に沿って、さらに探求していくプロセスが自然に達成できたように考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度も個々のプレゼンに、授業内で十分なフィードバックの時間は取ることができた。内容確認のためのタスクも追加した。議論の方向を見失わないように、毎回の授業はじめに、目標を具体的に示し、授業内で行うことを明確に提示しておくようにした。来年度も引き続き、授業の目的や行動目標を具体的に伝えたいと、学生がさらに意欲的に取り組めるようにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理 II	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①全体を通しての受講動機が、「関心のある内容」47%、「単位数を確保する」が76%だった。このことから、昨年度Ⅰを履修していた学生が引き続きの内容を想定して、履修したことが伺える。このような学生の学習準備状況を踏まえたうえで、「日本の歴史と文化地理Ⅰ」からの連続性を持たせるために、毎回基礎的な知識を確認しつつ、それを応用した「Ⅱ」の内容に入るようにしていた。今年度は、毎回コメントシートに記入し、プレゼンの感想や疑問点をまとめたものを提出した。発表した学生には、コメントシートを共有し、プレゼンのフィードバックも毎回行うことができた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	再試対象者はおらず、出席不足による評価不能もいなかった。すなわち、全員が標準的なレベルに達し、理想的なレベルに達したのは8名と全体の15%ほどで昨年よりも増えた。学生による到達度自己評価においても、すべての項目で平均値4.5～3.9であった。このことから、自身の目標を達成できたとしていることが分かる。しかしながら、「情報利用」や「図書館利用」に関しては、9割の学生が利用しなかったと答えている。次年度は図書館で調べ物を行う課題を出すことで、実際に足を運んだり有効に活用できるよう促したい。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPからの位置づけ…「I」に引き続く内容の「II」であるため、科目の連続性を大切に。「I」のシラバスで習得されたことを、授業初回に確認し、それらの知識を発展させながら、「II」に取り組んだ。さらに折にふれて、具体的な事例を示し、学問の考え方が日常生活と結びつくことを強調し、グループワークにより多様な考え方を引き出させた。②DPからは、「様々な課題を検討することができた」「知識を確認することができた」項目の平均値が4.5とある。これは、プレゼンの後に、考えるタスクを課し、グループで検討してきた成果であろう。③まとめ…以上の理由から内容的妥当性を担保していると判断した。☑

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として「他の課題で忙しくする時間がなかった」という意見があった。これについては、他の科目との関連性を見出し、科目の価値を位置付けるとともに、学生には課題を効率的にできるよう支援したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度評価と授業の質評価の項目において昨年度同様高い評価が得られた。昨年度に引き続き、学生とのコミュニケーションをとりながら授業を進めていくことの重要性を感じた。来年度も対面授業が基本だが、GoogleClassroomを活用しながら進めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	永吉 守

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文化人類学	3	後期	選択	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>文化人類学は、(主に海外の)異文化についてどのように理解するか、という学問なので、異文化を相対的にとらえたうえで、自文化との共通性(なり人類としての普遍性)を発見するというような視点が必要であるため、異文化の個別具体例を示しつつ、その根本原理が自文化と類似していたり共通していたりする、というような形で日本の事例も引き合いに出しながら比較対照的に提示することに重点を置いた。学生には各回のテーマについて調べる形での学習準備を促したが、シラバスの「理解に必要な予備知識や技能」には特に予備知識や技能が必要だということを明記していたなかったこともあり、実際には受け身の態度であり、学生の準備性への認識は低かった(準備は必要ないと思った学生が多かった)といえる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講動機そのものが学生の興味関心というよりも「単位数確保」に偏っており、自由記述欄に「他にすることがない」とあったことから、そもそもの履修登録の段階で本科目が単位数確保のための科目になっているという現状がある。成績については、おおまかに講義内容を把握したと考えられるレポート答案が多かったため、「やや達成された」としたが、学習意欲という面においては、積極的に予習復習を実施するという感じではあまりなかった。また、レポート答案についても、評価としてまずまずだが、関連する異文化コミュニケーション論などの理論を安易に使用したのではないと思われる答案が目立った。各自の興味関心経験にひきつけた答案を今後期待したい。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の到達度自己評価から、カリキュラムマップの文化の相対性(我々の文化もまた、ある時代の特定の文化が生み出した知識と技術の体系のひとつであり、絶対的、普遍的なものではない)や他者理解についての視点、分析等について学生は「まあまあ」の肯定的評価であるが、教員側からDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみた評価としては十分に修得出来たとと思われる学生がいる一方、内容を本当に十分に理解しているのか、表面的にレポートとして合格点をもらえるレポートを書いただけ、というようなレポートの文面もうかがえた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、初年度ということもあり、講義中心に進めつつ、講義の解説の中で学生に答えさせたりする場面を作ったり、絵や図(系譜図など)を書かせるような場面を作ったのだが、学生には「学生参加の機会があまりない」ととらえたようだ。次年度はより学生の発表やディスカッションの場を設けたい。なお、学生からの意見としてレポートの字数制限を設けてほしいというものがあつた。レポートの字数制限を設けていないのは、あくまでも自主的・自発的にレポートをどのようにまとめればいいのか、3年次以上の科目であるので創意工夫してほしいためであるが、自由意見として「何枚書けばいいかわからないし、長く書こうとするとごちゃごちゃする」ので字数制限を設けてほしいという意見があつた。しかしながら、これはレポートの出題意図として学生が自発的に創意工夫して「程よい」レポートを作成することを狙っているためであるので、字数制限は設けていないし、今後も明確な字数は指定しないつもりである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

おおよそ達成した面もあれば、不十分な面もあると思われるので、教員側もより学生に積極的に授業に参加させるような工夫をこらしたい。そのためには学生には単位数確保という動機よりもっと積極的な動機で本授業を履修してほしいと思う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	角谷 尚久

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業は2年次配当であるが、就職活動につながるインターンシップは3年次となっており、認識を高めるためにも、現業で働くゲストスピーカーに講演いただく授業構成とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価において、平均値が4.0-4.3であり、学生の目標達成はいづれも達成できていると思われる。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP,CP,カリキュラムマップと照らし合わせた内容に問題はなく、妥当であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、平均値が4.2-4.5であり、当初の目標は達成できていると思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

就職課の協力の下、ゲストスピーカーを招いての授業を多くできた。学生にとって、就職活動の意識を高めることとなった。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	高橋 和幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①英語学科において「簿記入門」という科目名自体、違和感を覚える者も多いのではないかと感じていたので、簿記を学ぶ意義やビジネスにおける役割を意識させたり、具体的に説明することに努め、さらにはより多くの問題演習の機会を設けた。受講動機を確認すると、「資格取得に必要である」と「関心のある内容である」がともに50%であったことから、このような実施方法は適切であったと考えている。</p> <p>②シラバスに示した通りの小テストを実施したことで、学習のモチベーション向上につながったと考えている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価によると、10項目の平均点すべてが4点以上、かつ全項目が英語学科平均以上となっている。またアンケートの自由記述の中の、「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」において各自意欲的に取り組んだ様子が確認され、このようなことから、教育目標はおおむね達成されたと考えられる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP4-3「自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。」に照らしたとき、将来の進路において活躍するために自分の能力や知識を向上させる科目であると考えている。

②CPにおいて「キャリア形成科目」では、「国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいる。」とされており、本科目は適切に位置づけられている。

③まとめ

上記①②および学生の受講動機や到達度自己評価の回答から考えても、内容的妥当性を有していると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義初回に実施したアンケートによると、簿記学習経験者は23名中3名であったので、常に初学者向けに平易に具体的に講義を進めることを心掛けた。

また、問題演習が理解のための大きな要素となるので、より多くの問題演習の機会を提供したり、シラバスに基づき小テストを実施し、こまめにおさらいできるようにした。

自由記述にも、説明が分かりやすいとか、今後簿記検定に挑戦したい旨の記述があったことから、良好に講義を進めることができたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

英語学科での簿記の講義ということで、小職自身もいづらか不安を抱いていたが、これまでの経験をもとに入念に準備して臨んだ結果、アンケート結果からも概ね良好な講義を実施できたと考えている。

次年度も同様の講義方法を継続したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ボランティア演習	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>One aim of this course was to encourage students to think about international cooperation and volunteering through actual experience of engaging in a volunteer project. Another aim was to help them to further develop and strengthen various soft skills, such as planning, organization, leadership and teamwork skills, through participation in a team-based volunteer project. In this course we worked with two NGO/charity organizations. Members from these organizations joined us as guest lecturers, and through hearing directly from them about the areas they work in, as well as conducting research before the guest lecture to gain an initial understanding about each organization and their projects, it is hoped that students could improve their understanding about various local and global issues and about international cooperation in general. Students then chose themselves what organization and what particular project they would like to be involved in during the course, and in their own groups, and with ongoing consultation with the respective organization representatives, they planned, put into action, and evaluated their volunteer projects. Each group had different issues to deal with as the goals of their projects differed, however each group and each individual engaged proactively in their tasks in their own ways, and made efforts to successfully complete their projects, as well as achieve the course aims.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>All students taking the course performed at an extremely high level. They overcame various difficulties throughout the semester by working as both individuals and as a team to achieve their set goals, and through this experience they were able to develop their soft skills. This was evident through observation of their group work during the semester, as well as through their final presentations and reflection reports where they presented their achievements and reflected on their work.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

After the first five weeks of the course where the basis for the volunteer activities was set, the course predominately involved group work, with myself monitoring each group's progress during and outside of class. As each team was a unique dynamic of individuals with different personalities and skills, and engaged in completely different projects, their approaches and progress differed. While I feel that we were able to manage the projects relatively well, the project management element could perhaps have been done more smoothly, and as project management is an example of a soft skill, this could be better incorporated into the course in the future.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Overall, I felt that the students worked extremely well to achieve the various course aims. In future years, I would like to consider how to organize the course and projects/group work in even more efficient and effective ways, while at the same time being careful to not overemphasize the activity element and to keep at the core the underlying issues of being conscious of the various inequalities in society and our positioning towards them.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童英語教育研究	3	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職関連教科であるが、単位取得のために登録する学生が多いことから、教科としての専門性を扱いながら質問しやすいよう心掛けた。出席確認時の「10秒近況報告」のその一つである。Google Classroomによるフィードバックを設定し、各自の理解や関心に応じて教員とのコミュニケーションを図れるよう計画し必ず返信コメントを記入することとした。</p> <p>②各テーマの授業に当たっては、前期の「児童英語教育入門」で学んだことをより具体的に体験できるようにした。教室実践の一助となるよう「Classroom English」の練習や「Activity for Today」による学習活動紹介の時間を設定した。また、授業で利用できる学習活動を自ら考えたり、教材となる歌や絵本を見つけたりする課題を設定した。また、その際、互いの学習成果を発表したり説明したりして教室で学生同士が学び合える場を意識的に設定した。発表課題である「模擬授業」は、全員が、教師・生徒の立場を体験して互いの工夫を学べるようにした。</p> <p>③レポート課題やフィードバックの提出遅れ、模擬授業担当日の欠席（やむを得ない事由による欠席を除く）の扱いを事前に明確にして学生の評価に対する不安や疑念を除くようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>まず、本授業評価アンケートへの回答が全11名うち2名のみが提出しているため、アンケート結果と日頃の授業記録をもとに以下記していくこととする。アンケートにおける到達度の自己評価は4.5と高い。授業におけるレポート課題達成度の平均は75%であるが、過半数が88%の達成度であった。また、模擬授業においては、平均達成度は78%で、中には93%以上も含まれている。フィードバックは授業振り返りと質問を含む個人レベルのコミュニケーションの場としても設定しているが、うまく活用できていなかった場合が数名見られた。それでも全体の提出平均は80%であった。②授業終盤にはまとめとして、模擬授業を行ったが、授業者全員がよく工夫し、またそれぞれの個性をいかした学習活動を紹介できていた。生徒としても授業に積極的に参加し、クラスメートの学びを支えるとともに、自らも学ぶ姿勢があった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見た内容妥当性
本教科は教職関連教科であるが、「選択科目」であり、教職課程は11名中4名であった。授業においては、学生の関心意欲を高めるため、身近な問題や自身の学習体験を想起する場を設けながら授業を進める工夫が求められる。一方、2017年版学習指導要領（外国語活動・外国語科）において、「英語の堪能な地域の人材の活用」が明記されていることから教職志望でない本学卒業生も英語教育に携わる可能性は極めて高い。その状況の中、学生は一定の成果を出していることから内容的に妥当であったと考える。

②DPから見ての妥当性
成績評価において9/11名が合格した。秀（1名）、優（5名）、良（1名）、可（2名）であった。特に発表課題「模擬授業」においては、上項目でも述べたが、各自が工夫し個性を生かして発表でき、さらに生徒役として参加した際にはクラスメートを認め学ぼうとする説教的な態度が見られていた。本学で育まれた学生の誠実さや温かさも発揮される項目であると再認識した。評価場面の工夫は今後も検討すべきであるが、内容的には妥当であったと言える。以上から内容的妥当性に問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①「授業の質評価」において、2名とも5としており、少数の回答ではあるが、学生は充実した時間を過ごせたのではないと思われる。
②「学習量の評価」では、予習・復習にきちんと取り組んでいることがわかった。
③「授業記録」は、教科書を補足する必要からワークシートを準備したため、それを活用したものと思われる。
④「情報利用」「計画立案」では、個人差があった。なお、「図書館利用」については、インターネットを利用するレポート課題を多く設定していたため授業のための利用は少なかったと推察できる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①後期は、教職課程履修希望者が中心となるため、前期に比べて、学生間の学び合い活動が実施しやすい状況となることが予想される。この状況を生かして、コロナ感染予防対策には留意しながら、学生が尊重し合い学びを深め合える工夫を継続したい。
②授業前の「10秒近況報告」は、3年生になって必須科目でクラスメートとともに学ぶ機会が少なくなってくる時期にあって、交友関係の充実に寄与するものと考えている。今後も、教室が学生にとって居心地の良い場所となるよう努めたい。
③遠隔授業実施に伴い、全教室のWifi環境（Sweet Spot）が整い、ICTを活用した授業が行いやすくなっている。今後も意見交換・統合ツールLearnWiz Oneを始めとするオンラインツールを利用して、学生の学びの広がりや深まりを効率よく進められるような工夫を続けたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Recently, Project-Based Learning (PBL) has become a popular focus for language learning. Using this approach, students in this zemi worked on projects in English that had a specific goal. For this seminar, we once again used Sustainable Development Goals (SDGs) as a focus for their learning. Students researched the different SDGs and gave presentations on them, and then examined projects around the world aimed at reaching the goals of the SDGs. Each week, we would focus on one issue using presentations, guided research, discussions, and project planning. We also participated in the Hakkou Japan project in collaboration with Tanga Market organised by Kitakyushu City. This was an exceptional seminar group, and all students produced excellent work.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students in this seminar class worked extremely well together, and were able to collaborate successfully on our different projects. We collaborated together to formulate a new set of goals and objectives, and the students worked very well to achieve them. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

As stated above, this group has basically no weaknesses, and have excelled in working towards all DP goals. All targets set by this class were very competently attained.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Now that classes have returned to normal, we were able to start exploring some of the areas that had been implemented for the first semester. For the coming year, we will spend a lot more time on collaborative planning. The personalities in a zemi class have a huge effect on its outcomes and effectiveness, and my focus this year will be on harnessing those skills and positive traits to make a more effective seminar class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As in other years, assessment for this class is based around the students' own self-assessments and peer review. For the second semester, we ended the term once again with the students all submitting a self-evaluation video which they shared with the class. This approach is transparent and collaborative, so there is no need to implement any changes in the foreseeable future.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動では、挨拶やマナーなど社会人になるための基礎的な素養に加え、毎週自由なテーマで3分間のプレゼンテーション発表を行い、ゼミ活動を通じて社会人基礎力や魅力的で効果的なプレゼンテーション力の育成を目指した。毎回担当者はプレゼンテーション資料を期限までに作成したものを事前に提出し、ゼミ当日にはゼミ生の前でプレゼンテーション発表を行う機会を設けた。また、ゼミ活動では地域の英会話教室と連携して、児童・生徒に英語を教えるボランティア英語学習活動を行い、ひとり一人が作業や役割を分担することによって、責任感や協調性、リーダーシップを身につける機会となるよう心掛けた。</p> <p>地域連携活動を行う中で、広報活動や活動準備、企画書や報告書の作成などを行い、これら一連のゼミ活動を通じて、学生たちは多くを学び、多様なスキルを身につけ成長する機会となった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.9、「説明は理解しやすい物であった」は4.9、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.9、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.9と概ね良好であった。</p> <p>今後も学生が中心となって活動を企画・実施する活動を多く取り入れ、社会とのつながりの中で学生たちが協働しあって成長を遂げられるような機会を多く設けていきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.8、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.4、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.8、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.9、「職業倫理や行動規範（守るべきルールなど）について学ぶことができた」は4.9、「職業選択の参考になった」は4.9と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、プレゼンテーション発表や地域連携活動の機会を多く取り入れ、学生たちの人間力や社会人基礎力の育成に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」83.3%、「関心のある内容」66.7%、「単位数を確保する」33.3%、「友人が履修している」16.7%で、その他の項目は0%であった。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。③マナーやSPIの勉強時間を入れたり、4年次から就職活動に備えた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、7名がAで1名が出席不足で単位が取れなかった。とても仲がよく連携の取れたゼミで、出席者は全員が毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。学生の到達度自己評価によると(1)4. (2)4.7(3)4.7(4)5.0(5)4.7(6)5.0(7)4.8(8)4.7(9)4.7(10)4.2であった。去年は、(1)4.7 (2)5.0(3)5.0(4)4.7(5)4.7(6)4.7(7)4.3(8)5.0(9)4.3(10)4.3であった。去年との大きな内容の変更点は、発表の時間に、SPIやマナーといった就活を意識した内容を入れたことである。しかしながら、去年との数値の比較でそれがどのように評価に影響したかは数値としては表れなかった。全員準備をきちんとし、臨み、有用な意見を発表していた。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容の妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、(1)4.8,(2)5.0,(3)5.0,(4)4.8,(5)4.8と高めの評価であった。教師としては学生の意見や質問をたくさん受け入れたいのでそのように促しているつもりであるが、(4)(5)で5.0とならないのは残念である。自由記述欄には、ポジティブな意見を記入してくれた。授業内容のことに関しては、「ただ読むだけでなく、人物像を考察したり当時の風潮から物事を考えたりするのがとても面白かったです。」などの意見があった。また教師からの質問として4年生でやりたいことを聞いてみたら、いろいろな意見を出してくれたので、できるだけ実現していきたいと思う。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況としては、総合的には「達成」、課題としては、このままの学習意欲を維持させることと、ゼミの授業の中で引き続き新聞やSPI、マナー講義の時間や、TOEICの勉強の時間（5分程度でできるもの）も引き続き継続していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The main aim of the course is to set the groundwork for next year's graduation thesis. By examining issues in greater details and preparing students with more detailed research activities and exercises, it was the intention of the course to help students get their minds prepared for the task of doing a graduation thesis.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The students were interested in the material and took on the challenges presented to them. As DP2 is of particular importance for this course as preparation for next year's graduation thesis, it was good to see their understanding of the material and subsequent improvement in their skills.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Within the curriculum map the course is well placed to take advantage of the various skills and knowledge the students have acquired in other courses. Bringing all this together and finding a way forward towards their graduation thesis for next year is the general aim of the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although the students were quite varied in their levels and motivations they worked surprisingly well together, which helped to make this course a success. The improvements in increased research opportunities that were added last year, and expanded on this year, allowed the students to work through a larger project before having to actually do it themselves, which was very enlightening for them and will hopefully lead to more success in the following course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

With the further improvements made this year and the classroom opportunities to develop stronger group dynamics it can be said that the course was a success. It is hoped that they will be able to benefit from this in their final year.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習 II	3	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Building on from their learning about the situation of multiculturalism, immigration policies, and related language and education issues in various countries around the world in the first semester, students considered what themes they would like to more deeply research, and made teams with like-minded peers. In their teams, students set their research questions, decided how they would conduct their research, and carried out their research, in consultation with the teacher, and while receiving feedback from the teacher and their peers. Each team presented their research results at an online joint-seminar session held with students from a university in Yamaguchi prefecture, and were also able to engage in academic discussions during the online session. In this way, the aims of this zemi were for students to experience conducting a research project in a team, in preparation for conducting their own research projects in order to write their graduation theses, to engage more deeply with the zemi theme, and to be able to share their research results and engage in academic discussions with peers from a different university. Overall, each team and each team member contributed in their own unique ways to their projects and the zemi allowing them to gain an initial understanding of how to conduct a research project.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Through engaging with feedback from the teacher and their peers, as well as through self-reflection, each team and individual student were able to show improvement in their understanding of how to conduct a research project and how to present research results. Although there is still much room for improvement, hopefully this initial experience will act as a foundation for the students when conducting their graduation theses research projects next year.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Although through observation of students' weekly work throughout the semester and their final presentations (and engagement with academic discussions with peers from another university) it was clear that there is still much room for improvement, it was also clear that students had gained skills and confidence in conducting a research project, which leads me to feel that the overall approach to how the course was conducted was successful.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

While overall I feel the students could start to gain the target skills that will allow them to conduct their own research projects for their graduation theses, in hindsight I feel that perhaps doing some more focussed work on research methodologies before getting started on their group research projects may have been helpful, and I would like to consider incorporating this into the course next year.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Once again, this year, the focus was almost entirely on completing their sotsuron studies and report, though each week supplementary activities were completed. In semester 2, rather than work in a specific class period timeslot, we had an open attendance policy with students able to come and go during a whole afternoon I had available. This resulted in considerably more work for me, but it allowed for more student interaction, and consequently, much stronger sotsuron reports. Of course, this was disrupted by the change from face-to-face to online during the second semester, but all students completed the requirements.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	As in other years, though distracted by job hunting, this class generally worked well towards achieving their goals. They definitely worked better when offered time flexibility.					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For the most part, this class progressed well, though absences in semester 1 for job hunting caused issues. Support for each other was effective, and 'sotsuron' were satisfactorily completed. Attendance was never an issue, particularly in semester 2 once job hunting had been basically completed.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

From lessons learned in this and previous years, sotsuron writing will be much more structured this coming year with specific deadlines for specific sections. This focus on sections of the report rather than the whole should enable the students to complete their reports in a much more timely manner. With the sotsuron deadline coming earlier this year, management of time might be less of an issue.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

With a seminar class focusing on sotsuron and job hunting as priorities, it is what it is, so current systems will be continued.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業論文の完成に向け、定期的に締切をもうけ、次に何をするか明確な目標を与えながら指導した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>遅い学生でも12月上旬には卒業論文を完成させ、全員がきちんとポスターセッションで発表した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分が興味を持つテーマに対し、深く広く調べ、それを論理的に展開しながら説明し、自分の分析・主張を加えるという作業ができています。これは社会に出て行く前に身につけるべき能力であり、それが満たされている。学生も満足している。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

現状でよい。4月から夏休みに向けて一定のペースで学生なりに調べたことを文字化して提出させ、教員は夏休み中にそれを読んで、後期の仕上げ作業に向けたアドバイスをするという進め方は、極めて適格である。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお願いします。

十分満足のいく授業だったと自負している。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>卒論の執筆・完成にあたり、論文執筆の作法に加え、オリジナリティーあふれる着眼点を持つことの大切さ、研究倫理の理解や引用の適切性、自分の言葉を他者にわかりやすく説明・表現することの重要性、問題提起への自分なりの答えを模索しながら研究することの醍醐味を学生たちに理解してもらうことを心掛け指導にあたった。卒業論文のテーマについては学生本人が追求したいテーマを尊重し、丁寧に指導することで一人一人が達成感に満ちた卒業論文を完成させることを目指した。学生間における意見交換や自身の論文発表の機会などを設けることによって、ゼミ仲間との交流も図りながら各々が高いモチベーションを維持しながら意欲的に書き進めることができるよう工夫した。全員が卒業論文を立派に完成させ、提出することができた。ゼミ生全員が4年間の互いの成長と努力を讃え合い、笑顔で卒業式を迎えることができたことは何よりも喜びである。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は5.0、「説明は理解しやすい物であった」は5.0、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は5.0、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は5.0と概ね良好であった。</p> <p>ゼミ学生の意見として、「卒業論文のことだけではなく、就職活動についても親身に話を聞いてくださり、背中を押してくださり本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。」とある。本年度も素晴らしいゼミ学生たちに恵まれたことに感謝している。学生ひとり一人が4年間に亘る日々の学びと成長の集大成として、卒業論文を立派に完成したことをうれしく思う。本年度もゼミ生全員の卒業と就職が目標達成できた。今後も、ゼミ生ひとり一人の学修・就職・大学生活全般に関わる相談に乗りながら、学生各人の夢と目標が達成できるよう寄り添った教育を行ってきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は5.0、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は5.0、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は5.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は5.0、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は5.0、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.3と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの卒論執筆・完成ならびに就職進路の決定に向けて尽力していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 卒業を前にした仕上げの科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。</p> <p>② 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。必要がある場合は、授業外にも時間を設けて指導した。</p> <p>③ 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示し、定期的に進捗状況を確認した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル以上に達し、卒業論文も規定に沿って仕上げる事ができた。また、到達度自己評価については、すべての学生がすべての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答をしている。学生の卒業論文や課題は十分基準を満たしたものであった。よって教育目標は達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかつたり、データベース、インターネット等を十分活用できてなかつたりした学生もいたことは、今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

この科目は大学でのこれまでの学修の総まとめ的な位置づけである。これまで学修してきたことを用いて学修を進め、最終的には卒業論文にまとめていくという授業内容になっており、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全ての学生が全ての項目について「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答している。討論する際に、互いに向き合って話すことができず、討論が進みにくいこともあったが、時が進むにつれて少しずつ慣れ、後期の後半には課題等について関連に討論することができた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

卒業論文については、個別での指導をかなり実施したり、互いに学ぶという観点から、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションしたりしたことは、各学生の論考を深める点で効果的だったと思う。また、インターネットやデータベースの利用について十分指導する時間を取ることができなかったため、活用に苦慮した学生もいたようだが、個別に対応した。卒論の個別指導については、Meetも併用したため、例年よりも細やかな指導ができたと思う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」83.3%「関心のある内容である」50%「単位数を確保する」16.7%であった。ちなみに全員第一希望でこのゼミを選択したメンバーであった。②授業の初めに就職希望先に関係ある新聞や社会人マナーを分析発表する活動をし、就活の面接対策にした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、A100%である。ほぼ全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだ。学生の到達度自己評価によると(1)から(6)が全て4.8で、(7)4.7,(8)4.8(9)4.0(10)4.0で、去年は、(1)4.1(2)4.4(3)4.4(4)4.1(5)4.0(6)4.3(7)4.0(8)4.0(9)4.3(10)4.0であったので今年は数値が上昇した。最後まで卒論がなかなか進まなかった学生もいたが、なんとか終わることができた。また就職報告会では、発表者の過半数の学生がこのゼミから発表者として選択され、見事な報告を行ってくれた。そうした発表力の基礎がゼミでのディスカッションの効果として体現できたことは喜ばしいことである。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の項目においては、ほぼすべての項目において、学生全員が「かなりそうだと思う」を選択している。図書館の利用は、6名中(1)①1②5であった。図書で調べるといよりは、ネットなどの最新情報に所する研究内容が多かった去年の反省を踏まえ、今年は、図書館の本も使用するようにと誘導した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

毎回活発な議論を交わし、お互いを思いやる大変良い雰囲気のゼミで、就職活動発表会においては、たくさんのゼミ生が学年全体の代表として発表するなど、良い就職先を確保したことも、日頃の積み重ねであったと評価したい。アンケートの自由記述欄には回答者全員の学生がたくさんのポジティブなコメントを残してくれた。例(一部)、「毎週のゼミがとても楽しかった」「ゼミのメンバーも内容も大好きでした。」「新聞記事のシェアとマナー講座が就活に役に立ちました」など。課題としては、教師が文学者としての教育力を学会などにもっと参加したり、研究を重ねたりして高めることです。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension I	1	通年	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This year, we were able to offer many of the events and activities we normally do, although we still had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (20/21) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 99.24%, with a high of 100% and a low of 84%. Standard deviation was 3.41.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, this course will be managed by Mr. Zitzmann. We have discussed the needs and goals of the course and he is pursuing a more streamlined program built around fewer lectures and more interactive sessions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As with last year, following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension II	2	通年	必修	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This year, we were able to offer many of the events and activities we normally do, although we still had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (21/35) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 89.94%, with a high of 100% and a low of 68%. Standard deviation was 14.87.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, this course will be managed by Mr. Zitzmann. We have discussed the needs and goals of the course and he is pursuing a more streamlined program built around fewer lectures and more interactive sessions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As with last year, following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension III	3	通年	必修	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This year, we were able to offer many of the events and activities we normally do, although we still had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (20/50) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 87.60%, with a high of 100% and a low of 64%. Standard deviation was 14.99.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, this course will be managed by Mr. Zitzmann. We have discussed the needs and goals of the course and he is pursuing a more streamlined program built around fewer lectures and more interactive sessions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As with last year, following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
English Extension IV	4	通年	必修	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Learning a language cannot be successfully completed simply by attending classes, no matter how good the student is. They need extra stimulus and wider opportunities to use the language, and this is what we have focused on in the English Department. This is a course that was set up to give students credit for the many English-related events we hold, such as lectures, department activities, movies, cultural events, and so on. They can also receive credit for their work on our CHleru e-learning system. Part of the credit offered is for attendance, but the larger portion is for the follow-up reports which we require them to write.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>This year, we were able to offer many of the events and activities we normally do, although we still had to rely heavily on English lectures and online activities to complete the course. All students who participated in the programme received passing grades, with a large number (22/41) receiving perfect grades. This is reflective of the high attendance we could achieve in our programs, and their high level of work. The average grade was 99.24%, with a high of 100% and a low of 74%. Standard deviation was 10.94.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Once again, all DP areas achieved high levels, and the flow over into other areas was marked. Because of the higher involvement of the students in our activities outside class, inside class participation has also increased. We are also seeing improved results in written work. Likewise with CHleru, we are seeing the highest grades and progress levels ever because they now receive impetus, oversight, and recognition for the work they have done.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, this course will be managed by Mr. Zitzmann. We have discussed the needs and goals of the course and he is pursuing a more streamlined program built around fewer lectures and more interactive sessions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

As with last year, following the high grades of previous years, we have raised our expectations of the level of work we require from the students. We will continue with this trend of giving more reflective assessment of student work, and recognise special achievement. We have pushed for greater transparency in grade reporting to students, and we will continue this work, with the ultimate goal of having students being fully responsible for their grading.

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。</p> <p>③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上3名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満1名、60点以上70点未満0名、レポート未提出（単位の放棄）1名であった。授業全体で90点以上は8名なので、上位者の割合、平均点も、他学科に比べて優秀である。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の意見に、素材が古いという意見があったが、「コアカリキュラム」でも教育思想史や制度史に触れることを求められており、歴史の授業は不可欠である。学生の中に歴史学習への意識がないのか、あるいは授業方法が合わないのかわからないが、「歴史嫌い」があるとすれば興味を持てる歴史授業を構築する必要がある。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①教育学の基礎に関する総括的な授業であるために、教職への志向を高める内容が不足していた。2年時の教職概論との連携を考えて授業内容の構成を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○全学科：平均点83.3点、秀14人 (20.6%)、優34人 (50.0%)、良17人 (25.0%)、可2人 (2.9%)、不可1人 (1.5%)。SD8.04。</p> <p>○英語学科 (本年度)：平均点82.2点、秀0人 (0.0%)、優6人 (66.7%)、良3人 (33.3%) 可0人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD5.33。</p> <p>○英語学科 (昨年度)：平均点91.6点、秀6人 (85.7%)、優0人 (0.0%)、良0人 (0.0%) 可1人 (0.0%)、不可0人 (0.0%)。SD12.41。</p> <p>○昨年度と比較し、10ポイント低下した。全学科平均点も同様に低下しており、出題難易度や持ち込み等の試験条件の変更に伴う影響も考えられる。平均点は満足できる。可・不可がないのは評価できるが、秀がない点に課題がある。</p>					
<p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度と同程度の学習内容・程度であった。

○試験問題や昨年度より思考を求めるものが増え、やや難化した。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。

○到達度が昨年度より低下したのは、試験問題の難易度などが影響したと予想される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○本年度はある程度満足できる結果であった。平均点は優レベルであり、知識の定着については問題ない。思考を求める問題への対応が課題となる。

○昨年度は不可の学生がいたが、本年度は可・不可がおらず、基本的な動機付けの改善という前年度の目標は達成された。

○次年度はより思考力を要求する授業内容を充実させ、試験の要求レベルも上げていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、本科目の骨子が規定されていることから、教育課程の原理的歴史をまず教授し、次いで現代的な教育課程をめぐる問題について取り組んでいる。</p> <p>③2年生後期となって、少しずつ教職への意識がめばえている。したがって、教職を意識しつつ、具体的な教員としての資質形成につながるような工夫を行った。</p> <p>④学生同士の意見交換などのような学修上の主体性を大事にしたいと思い、グループワークを半分ちかく取り入れ、また反転授業にも取り組んだ。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、ミニレポート、期末レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上3名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満3名、60点以上70点未満0名、レポート未提出（単位の放棄）4名、平均点82.8であった。合格者の平均は高かったが、12人中から4名の放棄者が出たことは、残念であった。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、少しずつ慣れてきて意見の要約を構造的にできるようになってきた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の自由記述にほとんど記述がない。授業の感想は毎時間書かせているのでそこで授業の反応はわかるが、後期全体の感想がほとんどないというのは、一考の余地があるだろう。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①教育課程論という学科の専門科目と全く異なる分野の学修への動機は、教職希望ということをお察してもなかなか高めがたい。アクティブラーニングをできるだけ導入して、学生の主体性に期待する授業構成を目指しているのが、学生自身にこれまでしみついた受動的な姿勢からの転換が難しい。少しずつでも、受動的な姿勢から能動的な姿勢へ転換できるように、工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。意欲的な学生が多いので、なるべく学生からの意見を引き出しながら授業を進めていけるよう努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>再試対象者は0名で、ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。</p> <p>学生による到達度自己評価は、すべての項目について全員が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、この点からも教育目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、すべての学生がすべての項目について「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値が4.0から4.5であったので、授業の進め方については概ね適切であったと考える。しかし、学習項目が非常に多かったので、皆で意見を交換しながら考えを深める時間をとることが難しかったので、学習項目を精選するなどして、考えたり話し合ったりする時間をもう少し取れるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績は、概ね良好であり、レポートや試験の答案の内容からも、全員が標準以上の理解に達していると考えられる。英語教科教育法の基礎的な知識を身につけることができていると思うので、「英語教科教育法II」「英語教科教育法III」「英語教科教育法IV」「英語教科教育法V」の中で、より実践的な知識や技能を身につけていくことができるよう、教職課程の科目全般でサポートしていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育実習事前事後指導	3~4	三期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は、教職課程を履修している学生が3年後期から4年後期にかけて履修する科目であり、教育実習がより効果的に実施できるように、その事前事後に履修することになっているものである。そのため内容は、中学校、高等学校の英語教員による講演を聞いたり、教育実習に行った先輩の話の聞いたりした後討論を行ったり、模擬授業を行い、互いに講評したりするなど、実践に即したものになるようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>全員の最終的な成績が標準レベルを超えており、到達度自己評価についても全員が肯定的な回答をし、平均値が4.6から5.0、中央値が全て5.0であることから、教育目標を達成できたと考える。毎回レポートの提出が義務付けられており、全員提出し内容も基準を満たすものであった。また、模擬授業の実施や教育実習についての報告もきちんと行うことができた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性

本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性

学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価について、すべての学生がすべての項目について「わりにそう思う」または「かなりそう思う」と回答をし、平均値は4.8から5.0、中央値はすべて5.0だったので、授業の進め方は概ね妥当であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生の意欲も高く、教育実習の前後に行う科目であるので学生の目的意識も高い。また、模擬授業を行ったり、それについての講評を互いに行なったりするため、学生が主体的に取り組む場面も多い。そのようなことから目標の達成度も高い。遠隔授業で行われた期間は、東京や大阪の現職教員の講演を聞くことができ、福岡県以外の地域の学校の状況についても学ぶことができたと思う。今後も可能であれば、他の地域の現職教員の講演を聞くことができる機会を設けたいと思う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（中・高）	4	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職実践演習（中・高）は、教職課程を履修する学生が最終学年である4年次に教職課程の集大成として履修する科目である。これまでの教職課程における学びと教育実習を振り返るとともに、教師としての使命感、責任感、保護者や社会への責任感、信頼される学校づくり等の課題について総合的な理解を深めることを目指している。授業では、グループ学習や討論・発表などの機会を多く設け、学部や学科の枠を超えて学び合い、多様な意見や考えを発表し合うことによって相互に学び会える機会を与えられるよう指導を心がけた。</p> <p>教職課程での学びを振り返り、仲間と意見や考えを共有し合う中で自身に残された課題を再確認し、今後の実践力や教師としての資質・能力の強化に務めることができるよう指導を工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.5、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.5、「説明は理解しやすいものであった」は4.5、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.5、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.5と概ね良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.8、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.5と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職課程の学生たちの資質能力や人間力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職を目指す学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育におけるICT活用	1	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育におけるICT活用は、本年度からの新規開講科目であり、全学の教職課程1年次生全員が履修する科目である。授業は複数の担当者がオムニバス形式で授業を行い、またICTの利活用に関する外部講師を招いて授業を実施した。</p> <p>学生が教育現場における情報通信技術の活用方法やその歴史的経緯、現状、今後の方向性等について理解を深めることができるよう指導を行った。</p> <p>教育におけるICT活用方法の他、学習評価や公務におけるICT活用、教育データの活用などを取り上げた。教育におけるICTの活用について理解を深める科目であることから、本授業内においても課題の提出や意見発表、意見共有を積極的にICTを活用して行うよう授業を工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.2、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.2、「説明は理解しやすいものであった」は4.2、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は3.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.2と概ね良好であった。講義が中心となる授業形態であったため、今後は学生が話し合ったり、意見を発表し合う機会を多く設けるよう工夫したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は5.0満点中4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は3.8、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.0と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職課程の学生たちのICT活用力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職を目指す学生たちの指導に力を尽くしたい。